

令和7年度 国語 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・話し合い活動を取り入れることで、児童が自分の考えを持ったり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたりすることができた。
- ・3年生以上で、国語辞典を日常的に使えるようにしたことで日頃から辞書を引く姿がみられた。

(2) 課題

- ・「書くこと」において、自分の考えを条件に合わせて文章に表すこと。
- ・自らの生活と関連させて学習内容を捉え、考えや想像を深める力を身に付けること。
- ・漢字や言語の基礎的内容において、習熟の差があること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	平均正答率が、目標値を上回っている。		
第5学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。	
第6学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値と同程度であったが、主語と述語との関係の問題と第三学年に配当されている漢字を正しく書く問題では、目標値を下回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。

② 5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値と同程度であったが、修飾語の問題や第四学年に配当されている漢字を正しく書く問題では、目標値を下回っていた。	校内の正答率は、目標値と同程度であったが、聞き取りの問題や文章を書く問題では、目標値を下回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。

③ 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値と同程度か上回っていた。	校内の正答率は、目標値と同程度か上回っていた。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
拗音や長音の定着を促すために、視覚的な教材や音読活動を取り入れ、音と文字の結びつきを強化させる。 漢字の学習では、意味や成り立ちを理解させる活動を通じて、記憶の定着を図る。また文中で漢字を使用するよう促すようにする。	主語・述語を意識して、自分の考えを表現させる。 日記や振り返りで条件付きの文を書く課題を設定する。 絵本を読んだ後に、1番好きな場面やその理由を聞き、自分の考えを言葉にする練習を積み重ねる。	ペアやグループで話し合う活動を取り入れ、「自分の考えを出す。」→「相手の考えを聞く。」→「自分の考えを整理する。」という流れを組み込み、自分の成長を実感しながら学習に取り組む態度を育む。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎となる話す・聞くの指導を丁寧に行う。また、漢字学習においては、小テストをして児童に意識させながら定着を図る。漢字の広場の単元などで、短文を書く指導を通して、主語・述語をとらえる力を養う。	朝読書や図書の時間を活用し、本を読み、語彙力を高めることで、様々な表現ができるようにしていく。文章の内容を考えて書く活動と、文章で既習漢字を活用して書く活動を分けて行い、考えながら漢字を正しく活用できるようにしていく。	児童同士の交流を通し、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして、考えを広げる活動を増やし、進んで学習する習慣を身に付けさせる。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習漢字を活用する力に課題が見られる。タブレット使用により、漢字変換に頼る場面が増えているため、国語辞典を活用し、既習漢字や表現を自分で考えたり調べたりして活用する場面を増やす。	情報を正しく読み取ることができるよう、文や段落の構成を意識して読み取らせるようにする。また、目的に合わせて書いているか文章を読み返したり、よりよい表現を吟味したりする活動を通して、文章を書く力を高めていく。	話したり書いたりして表現する活動に苦手意識をもっている児童が一定数いる。自分の考えを人に伝えることができるように、交流の活動を取り入れる。また、交流した友達の意見から自分の考えを深められるよう、交流の方法を工夫する。

